

糖尿病治療薬メホルミンで認知症の発症が抑制される

2型糖尿病は認知機能低下を加速させ、認知症のリスクを高めることが知られている。糖尿病治療薬メホルミンが認知症のリスクに及ぼす影響については一貫した結果が得られていない。本研究では、メホルミンの使用と認知機能および認知症の発症との関連について検討した。

認知症のない70～90歳の地域住民1,037例を対象に6年間追跡し、メホルミンを使用する者としない者とを比較した。対象者のうち、123例が糖尿病をもち、67人がメホルミンを服用していた。メホルミンを服用していた患者と比べ、メホルミンを服用していなかった患者では、認知症発症リスクが5.29倍(オッズ比)高かった(P=0.05)。

したがって、糖尿病でメホルミンを服用している高齢者では、認知機能低下や認知症の発症を抑制されることが示された。糖尿病のない高齢者にも同様の効果があるのかも含め、大規模なランダム化比較試験でさらなる検証が必要である。

出典:Diabetes Care. 2020 Nov; 43(11): 2691-2701.